

令和4年度 湯沢市地方創生推進会議 議事録

- 1 日 時 令和4年7月12日(火) 14:00~16:00
- 2 会 場 湯沢市役所本庁舎4階 会議室43
- 3 出席委員 【出席12名】
(敬称略) 石沢委員(会長)、安達委員、後藤委員、菅原委員、眞木委員、
目黒委員、佐藤委員、小西委員、佐貫委員、齊藤委員、
伊藤委員、高橋委員
【欠席1名】
齊藤委員
- 4 案 件 第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について



案件での発言要旨

案件について(事務局から資料について説明)

○委員

総合戦略概要説明資料の9ページ、戦略3 結婚・出産・子育て支援の充実で、市の重要課題として「ライフスタイルの変化や将来への経済的不安による晩婚化と少子化の進展」とあります。全国的な問題となっていますが、経済的不安は大きい問題とおもいますが、湯沢市の若い方の収入はどのくらいでしょうか。

- 市 世代ごとの所得水準については、把握していませんが、秋田県は全国に比べると平均所得が低い状況であり、秋田県内でも県南が低い平均所得になっております。総合振興計画では、湯沢市の平均所得を秋田県の平均所得に引き上げる目標を掲げています。
- 委員 進捗状況の資料4ページに関連して、求人数が増えれば、大卒者が戻ってくるきっかけになると思いますが、湯沢市内の企業で大卒求人は、どのくらいあるのでしょうか。
- 委員 大卒求人の数字については現在持ち合わせておりませんが、一般的に規模の大きい事業所は大卒求人を出しています。
- 委員 進捗状況の資料2ページ、移住・定住施策の強化で、令和2年度と令和3年度実施の関係人口構築オンラインイベントに44人参加されていますが、この参加者は、市のほうで選ばれた方でしょうか。
- 市 都心部で募集を行っており、湯沢出身の方もいますが地域は問わず、応募のあった方を参加者としています。
- 委員 ゆざわローカルアカデミーの募集は、どのような方法で取組んでいるのでしょうか。
- 市 基本的にはSNSでの情報発信により呼びかけをしています。また、ゆざわローカルアカデミーのメイン講師のソトコト編集長指出一正氏のような、集客に影響のある方を講師として招き、参加者を募集しています。
- 委員 進捗状況の資料8ページ、令和4年度取組概要「不妊治療を受けやすい環境の整備」ですが、アンケート調査によると不妊治療をしている女性の多くは、企業や家庭での理解が得られず相談できる環境も整っていないため、退職せざるを得ない状況となっているようですが、どのような取組でしょうか。
- 市 企業における職場環境の整備ではなく、不妊治療が医療保険の適用となり不妊治療への体制がやっと整ったということです。現在の市の取組としては、自己負担分の軽減などの支援がありますが、利用者の状況に応じた支援を検討していきたいと思います。
- 委員 進捗状況の資料4ページ、奨学金の制度について詳細を教えてくださいませんか。
- 市 県と取り組んでいる事業で、主に大卒者をターゲットとしており、湯沢市に就職した場合に、借りている奨学金の返済を助成していくという内容になっています。年間、県が3分の2、市が3分の1を助成し、期間は最長3年間となっています。さらに湯沢市では、今年の4月から期間を10年間に延長しています。

- 委員 市では、若い人へ意識調査のようなアンケートを行っていますか。
- 市 令和2年度にふるさと仕送り支援という事業の中で、つながりをもった学生に対してアンケート調査を行っています。将来的に湯沢市に帰ってきますかという問いかけに対して、8割が「職種によって帰ってくる」という回答でした。引き続き、アンケート調査を行い、大学生等のニーズを把握し、支援の在り方を検討していきたいと思えます。
- 委員 進捗状況の資料8ページ、子供服の詰め合わせのリサイクルパックがありますが、中身は決まっているのでしょうか。
- 市 すでに中身が決まっています、保護者が選べるものではなく、抽選で決めています。
- 委員 高校生に対して、市でアンケート調査を定期的に行っていますか。また、行うことは可能でしょうか。
- 市 前に、湯沢市内すべての高校生に対してアンケート調査を実施したことがあります。学校の先生が窓口となりお願いをしていますが、学校ごとに対応が違うため難しい場合もあります。定期的には行っていませんが、市の計画策定やタイミングを見計らって行っています。

その他 委員からの主な意見

○ワーケーションについて、西日本が先行している理由などありますか。

●飯田アドバイザー

新しいことに取り組むという気持ちが高いです。ワーケーションはリゾート色が高く、リゾート地に集客しています。最近はリモート採用もあり、首都圏にいかなくても好きな場所で仕事ができるというのが増えてきているので、リモートワーク、オンラインで仕事ができるということを学生に伝えていくことも必要です。

○住んでいる一人一人が地元のことを理解し、さまざまな地域の課題に、みんなでアイデアを出しながら取り組んでいくことが大事であり、人口が少なくなるなかで、湯沢の良さを追求していければ良いのではと思います。

○ネットが普及し不便さがなくなってきた今、若い人たちがどんな理由で県外へ行くのかを考えると、何が必要か、先が見えてくるのではないかと思います。